



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



米国提携太平洋諸島の13～17歳の少女におけるヒトパピローマウイルスワクチンの接種率

ヒトパピローマウイルスワクチンは、ほとんどの子宮頸がんを予防するため、11～12歳の女子に推奨されている。CDCが米国提携太平洋諸島〔註釈1〕の13～17歳の少女におけるヒトパピローマウイルスワクチン接種率について報告しているので紹介する(1)。

はじめに

- 子宮頸がんは、世界中で女性のがんの中で4番目に多いがんであり、世界保健機関（WHO:World Health Organization）の西太平洋地域が推定患者数の4分の1を占めている。そして、マーシャル諸島の年齢標準化子宮頸がん率（女性10万人中74人）は世界で最も高い。
- ほぼすべての子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV:human papillomavirus）によって引き起こされる。2006年から使用が認可されているHPVワクチンは、すべての子宮頸がんの約75%を予防できると推定されている。
- WHOは、すべての国の予防接種プログラムにHPVワクチンを含めることを推奨している。そして、目標は「2030年までに90%以上の女性が15歳までにHPVワクチン接種を完了する」である。
- このレポートでは、2013年から2023年にかけての6つの米国提携太平洋諸島管轄区域うち5つにおける少女のHPVワクチン接種率について報告する。

方法

- ワクチン接種率の指標には「1回以上のHPVワクチン接種」と「HPVワクチン接種シリーズの完了状況」が含まれる。
- HPVワクチン接種シリーズの完了は「3回以上のHPVワクチン接種」または「接種シリーズが15歳未満で開始され、1回目と2回目の接種の間に5か月マイナス4日以上〔註釈2〕が経過している場合の2回接種」と定義される。
- HPVワクチン接種シリーズの脱落率は、評価年度末までに1回目の接種を受けた少女のうち、HPVワクチン接種シリーズを完了していない少女の割合として測定された。

結果

13～17歳の少女におけるHPVワクチン接種率

- 1回以上のHPVワクチンの接種率とHPVワクチン接種シリーズの完了状況は、管轄区域によって異なった。2023年12月現在、13～17歳の少女の1回以上のHPVワクチンの接種率は、パラオの58.0%から北マリアナ諸島の97.2%までの範囲であった。HPVワクチン接種シリーズの完了率は、パラオの43.4%から北マリアナ諸島の91.8%までの範囲であった。
- 2023年現在、北マリアナ諸島は、WHOの「2030年までに90%以上の女性が15歳までにHPVワクチン接種を完了する」という目標をすでに達成している唯一の管轄区域である。

2013～2023年における少女のHPVワクチン接種率の動向

- 2013～2023年の間に、1回以上のHPVワクチンの接種率は管轄区域全体で35.2～72.8パーセントポイント増加し（図1）、HPVワクチン接種シリーズの完了率は35.3～72.9パーセントポイント増加した（図2）。

- 1回以上のHPVワクチン接種を受け、ワクチン接種シリーズを完了した少女の割合は、パラオを除くすべての管轄区域で2013年から2023年にかけて毎年増加した。
- パラオでは、1回以上のHPVワクチンの接種率と接種シリーズの完了率は、2020年にそれぞれ71.6%と59.0%でピークに達し、その後2023年にはそれぞれ58.0%と43.4%に低下した。
- 米国領サモアでは、2022年から2023年にかけて、HPVワクチン接種シリーズの完了率が78.0%から82.8%に(4.8パーセントポイント)増加した。同じ割合で接種率が増加し続けると、米国領サモアは2025年までにWHOの「2030年までに90%以上の女性が15歳までにHPVワクチン接種を完了する」を達成することになる。
- HPVワクチン接種シリーズの脱落率は管轄区域と年度によって異なり、2013～2023年の間にはパラオを除くすべての管轄区域で脱落率が減少した。パラオでは2021年の最低17.2%から2023年の最高25.2%に増加した。脱落率が最も低かったのは北マリアナ諸島で、HPVワクチン接種シリーズを開始した13～17歳の少女のうち、完了しなかったのは2023年ではわずか5.6%だった。

考察

- 米国提携太平洋諸島では、ワクチン接種プログラムの開始以来、HPVワクチンの接種率が著しく増加しており、北マリアナ諸島におけるHPVワクチン接種シリーズの完了率はWHOの目標である「2030年までに90%以上の女性が15歳までにHPVワクチン接種を完了する」を上回っている。現在の接種率の傾向が続けば、米国領サモアもWHOの目標を達成する見込みである。
- 2023年の米国領サモア(95.7%)と北マリアナ諸島(97.2%)の13～17歳の少女のHPVワクチン接種シリーズ開始率は、米国提携太平洋諸島の3つの自由連合管轄区域(ミクロネシア連邦、マーシャル諸島、パラオ)(範囲=58.0%～71.4%)よりも高い。
- 米国提携太平洋諸島の管轄区域間の接種率の違いは、少なくとも部分的には、ワクチンへのアクセスの違いに起因する可能性がある。
- 米国領サモアと北マリアナ諸島はどちらも、学校に設置された予防接種プログラムと公衆衛生クリニックを組み合わせることでワクチンを提供している。一方、3つの自由連合管轄区域は小児のためのワクチン資金を受け取る資格がないため、ワクチンの供給が限られている[註釈3]。そのため、これらの管轄区域では、クリニックや学校以外の場所でHPVワクチンを一貫して提供できていない。
- 学校でのHPVワクチン接種プログラムは、特に低所得および中所得の環境でのHPVワクチンの接種率を高めるためのエビデンスに基づく介入であるが、ワクチンが学校環境でのみ利用可能である場合、接種率は制限される。たとえば、女子の中等教育就学率は、ミクロネシア連邦で約66%、マーシャル諸島で83%、パラオで80%であるのに対し、米国領サモアと北マリアナ諸島では約97%である。
- COVID-19パンデミック中に学校が閉鎖されていたため、一部の地域では学校ベースのHPVワクチン接種プログラムが中断されていた可能性がある。

文献

1. Tipples A, et al. Human Papillomavirus Vaccination Coverage Among Adolescent Girls Aged 13–17 Years — U.S.-Affiliated Pacific Islands, 2013–2023
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/73/wr/pdfs/mm7333a2-H.pdf>
2. CDC. Timing and Spacing of Immunobiologics
<https://www.cdc.gov/vaccines/hcp/acip-recs/general-recs/timing.html>

[註釈1] 米国提携太平洋諸島(U.S.-affiliated Pacific Islands: USAPI)は3つの米国領土(米国領サモア、グアム、北マリアナ諸島)と3つの自由連合管轄区域(ミクロネシア連邦、マーシャル諸島、パラオ)で構成されている。

[註釈2] 同一ワクチンを複数回接種するとき、最小期間が設定されている。通常、この期間より短い日数で接種すると、その接種は無効であると判定されるが、CDCは4日の猶予期間(4-day grace period)を設定している。最小期間よりも4日短い間隔以降の接種であれば、その接種は有効であると規定している(2)。

[註釈3] すべての管轄区域は、ワクチンの購入と予防接種インフラのサポートのために米国議会が資金を提供する予防接種プログラム資金を受け取っている。米国領土(米国領サモアと北マリアナ諸島)は、小児のためのワクチン資金も受け取っている。

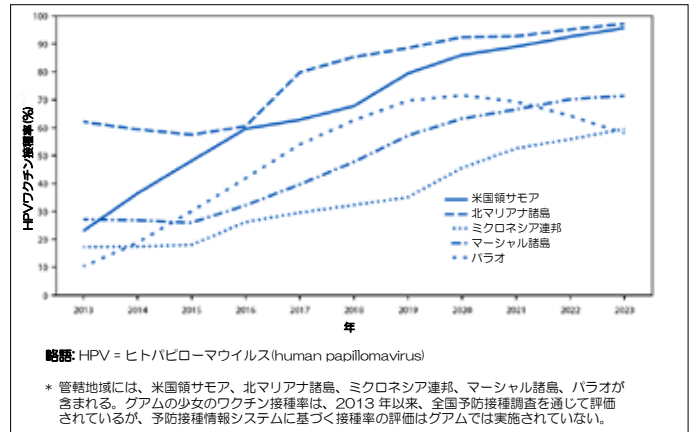


図1. 管轄区域別の13～17歳の少女における1回以上のヒトパピローマウイルスワクチン接種率の推移—米国連携太平洋諸島^{*}、2013～2023年

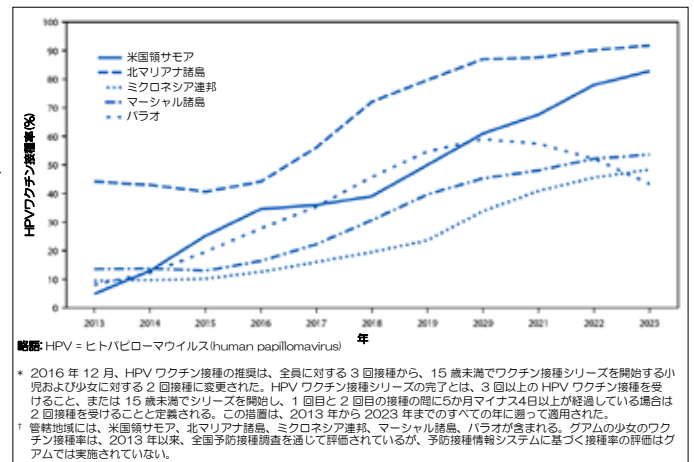


図2. 管轄区域別の13～17歳の少女におけるヒトパピローマウイルスワクチン接種シリーズ完了率^{*}の傾向[†]—米国連携太平洋諸島、2013～2023年